

ニホンザル対策モデル事業について

1. モデル事業の目的

2014（平成26）年4月、農林水産省と環境省が共同でとりまとめた「ニホンザル被害対策強化の考え方」において、環境省では、都府県における取り組みを強化・支援するため、鳥獣保護管理法に基づく各都府県の第二種特定鳥獣管理計画の策定の推進及び支援を行うとともに、加害群の特定や効果的な捕獲に向けたモデル事業を実施することとした。

本モデル事業では、特定計画の策定が進んでいない西日本から2地域（広島県及び徳島県）を選定し、群れに着目した科学的・効率的な管理を進めるため、群れの把握・加害群の特定を実施するとともに、計画に基づく効果的な対策を提案し、地域における効果的なニホンザルの管理の実践を試行した。

広島県及び徳島県をモデル地域とした事業は平成26年度から3年間実施し、今年度が最終年度である。

2. 事業の内容**（1）現況の把握と管理方針案の検討**

本事業では、ガイドラインで示した現況（生息状況や被害状況）の把握程度（モニタリングステップ）に応じて、必要な調査を実施した。調査の概要は、表2-1に示したとおりである。

また、調査結果を基に、広島県、徳島県の両モデル地域は共に群れの分布が連続しており、追いつめる余地もないことから、被害防除対策と捕獲の強化による加害レベルの高い群れの除去を合わせて加害レベルを下げる、という管理目標に向け、表2-2に示したとおり群れごとの管理方針案を検討した。

（2）管理の実践

現況把握の調査において特定した加害群に対する管理を実践するため、モデル地域の徳島県においては、麻酔銃による悪質個体の選択的な捕獲を試験的に実施した。また、同モデル地域では、市町村の追い払い等の対策を支援するため、電波発信機の装着を行った。

（3）普及啓発

有効な被害防除対策を実施するためには、地域の主体的な取り組みを促す普及啓発が重要であることから、モデル地域の広島県においては、住民向けの被害対策講演会を開催した。

また行政担当者、特に市町村担当者が計画的な管理において担う役割などについて理解を促すためのパンフレットをモデル地域の徳島県において作成した。

表 2-1 モニタリングステップに応じた現況把握のための調査の概要

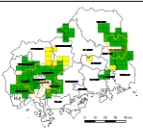
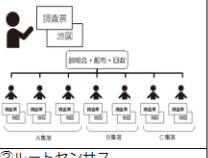
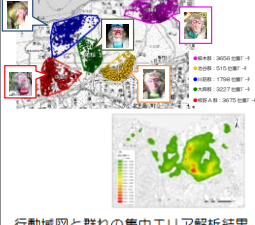
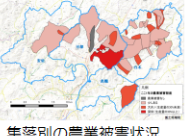
モニタリング ステップ	調査項目	目的	実施年度	対象(場所)	調査方法	調査成果
ステップ1	アンケート調査	①広域的な加害群の 分布概況把握 ②被害状況の把握	H26年度	広島県全域 (島嶼部を除く)	市町村担当者等への アンケート 	 広島県の群れの分布図
	ヒアリング調査①		H26年度	徳島県の一部 (群れ情報が不足して いた地域)	市町村担当者等への ヒアリング 	 徳島県の群れ推定分布図
ステップ2	ヒアリング調査②	加害群数等の推定	H26年度	広島県 (広島市安佐北区、安 芸区、佐伯区 神石高原町)	市町村担当者、猟友会等への ヒアリング	 加害群の概況
ステップ2～3	サル出没 カレンダー調査	①加害群数等の推定 ②加害レベル把握	H27年度	広島県 (広島市安芸区、 神石高原町) 徳島県 (鳴門市、板野町、上 板町)	①地元協力による調査  ②ルートセンサス 	 加害群数、加害レベルの推定結果
ステップ4	群れ追跡調査 (発信機装着調査)	①加害群の詳細な特 性や行動域の把握 ②二ホンサル出没カ レンダー調査の調査 精度向上、調査補充 ③捕獲や対策の効果 測定 ●追い払い等対策へ の利用	H28年度	徳島県 (上板町)	専門家等による直接観察 	 行動域図と群れの集中エリア解析結果
	GPS首輪装着 調査		H26～28年度	広島県 (広島市安芸区、 神石高原町) 徳島県 (鳴門市、板野町、上 板町)	①有害捕獲個体の活用(広島) ②麻酔銃捕獲(徳島) 	
ステップ5	個体数調査	①特に問題のある加 害群の個体数把握 ②捕獲オプションの 検討、捕獲目標頭数 の設定、捕獲手法の 検討 ③捕獲後の評価	H27年度	徳島県 (鳴門市、板野町)	専門家等による直接観察  前提：発信機/GPS首輪装着	群れの性別・年齢クラス別頭数 
その他	集落アンケート調査	①集落の被害状況 (農業被害・生活被 害)把握 ②集落の被害対策 実施状況把握 ③強化すべき被害 防除対策の検討 ④対策の効果測定	H27～28年度	広島県 (広島市安佐北区、佐 伯区) 徳島県 (鳴門市、板野町、上 板町)	集落代表者等へのアンケート 	 集落別の農業被害状況

表 2-2 両モデル地域で作成した管理方針案

モデル地域	加害群名	対策強化群	加害レベル	行動域	個体数		捕獲オプション	関係市町
広島 (案)	小野群		2	推定	20-25	推定	必要に応じて選択捕獲	神石高原町
	奴留田群		3	推定	15-20	推定	選択捕獲	神石高原町
	油木群		3	GPS実測	20-30	推定	選択捕獲	神石高原町
	永野群	○	4-5	GPS実測	30-50	推定	部分捕獲/選択捕獲	神石高原町
	相渡群	○	4	推定	40-60	推定	部分捕獲/選択捕獲	神石高原町
	高蓋群		3	推定	20-30	推定	選択捕獲	神石高原町
	時安群		2	推定	5	推定	-	神石高原町
	上瀬野群		3	推定	15-20	推定	選択捕獲	広島市安芸区
	阿戸群	○	4	推定	20-30	推定	選択捕獲	広島市安芸区
	中野群	○	4	推定	20-30	推定	選択捕獲	広島市安芸区
	矢野群		3	推定	15-20	推定	選択捕獲	広島市安芸区
徳島 (案)	榎木群		3	GPS実測	59	実測	部分捕獲/選択捕獲	鳴門市
	栗田群		3	推定	10-15	推定	部分捕獲/選択捕獲	鳴門市
	大浦群	○	4	推定	30-40	推定	部分捕獲/選択捕獲	鳴門市
	東地群	○	4	推定	30-40	推定	部分捕獲/選択捕獲	鳴門市
	川筋群		3	GPS実測	18	実測	部分捕獲/選択捕獲	鳴門市・板野町
	三津群		3	推定	20-30	推定	選択捕獲	鳴門市・香川県東かがわ市
	坂東群		3	推定	40-50	推定	選択捕獲	鳴門市
	池谷群	○	4	推定	30-50	推定	群れ捕獲/部分捕獲	鳴門市
	大谷群		3	推定	20-30	推定	選択捕獲	鳴門市
	板野A群		3	GPS実測	21	実測	部分捕獲/選択捕獲	板野町・鳴門市
	板野B群		2	推定	20-30	推定	必要に応じて選択捕獲	板野町・鳴門市
	上板A群	○	4	GPS実測	70-80	推定	群れ捕獲/部分捕獲	上板町・阿波市
	上板B群		2	推定	80-100	推定	必要に応じて選択捕獲	上板町・板野町

(4) 効果検証

モデル地域の広島県の広島市佐伯区では、広島市の事業として大型捕獲檻を使用したニホンザルの捕獲が予定されたことから、捕獲の実施前後に集落代表者等を対象としたアンケート調査を実施し、捕獲による被害軽減効果の把握を行った。

またモデル地域の徳島県においては、群れの個体に装着した GPS 首輪から得た群れの行動域を継続して把握し、捕獲等の対策による効果の把握を行った。

(5) 出没状況の把握

農業被害以外に市街地に出没するサルが全国的に増加する傾向にあることから、モデル地域の広島県においては、県内の市町の鳥獣行政担当者を対象にアンケート調査を行い、市街地等へのサルの出没状況や出没した際の対応状況等について情報を収集した。

また、モデル地域の徳島県では、効率的にサルの出没情報を収集するためのシステムとして、スマートフォンを利用した住民参加型のウェブシステム「ここいた！ケモノ調査隊」を開発し、試験的に運用している。

3. 成果

3年間のモデル事業の結果、モデル地域の広島県では、これまでのところ特定計画は策定されていないものの、広島市や神石高原町では、加害群の特定が進み、地域においても群れに電波発信機を装着して対策に活用することの必要性が理解されはじめるなど、計画的な管理に向けた取組が進められようとしている。

もう一方のモデル地域の徳島県では、2015（平成27）年に徳島県ニホンザル適正管理計画（第二種特定鳥獣管理計画）が策定され、計画に基づいた管理が開始されている。また、県内の環境部局と農林部局、関係自治体らが連携した取り組みが進められている。

なお、これまでのモデル事業の成果について他地域に普及を図るため、毎年度、事業レポートという形でとりまとめ、都道府県等に配布してきた。

4. 課題

ニホンザル対策モデル事業として、2つのモデル地域で3年間、事業を実施してきたが、以下のような点が課題として挙げられる。

- ・加害群の特定、その特性等の把握といった現況把握を中心に進めてきたため、実際の管理の実践とその効果検証までには、一部を除き至っていない。
- ・個体群管理と被害防除対策（生息環境管理を含む）を組み合わせる総合的に実施する必要があるが、被害防除対策については、環境省のモデル事業として実施できる内容に限りのある。